

## 令和3年度 第2回 尼崎市総合教育会議 議事録

【日 時】 令和3年10月11日（月）午後1時30分～午後3時30分

【場 所】 尼崎市役所 4-1 会議室

【出席者】 尼崎市総合教育会議構成員  
稲村 和美 市長／座長  
白畑 優 教育長  
徳山 育弘 教育委員  
太田垣亘世 教育委員  
中平 了悟 教育委員  
正岡 康子 教育委員

関係者（尼崎市総合教育会議設置要綱第6条）

吹野 順次 副市長  
能島 裕介 理事  
足田 剛志 こども青少年局長  
梅山 耕一郎 教育次長  
東 政信 教育次長  
西村 和修 管理部長  
増田 裕一 学校教育部長  
橋本 貴宗 学校教育部次長  
中道 隆広 職員課長  
谷 章 幼稚園・高校企画推進担当課長  
石本 将史 いじめ防止生徒指導担当課長  
高橋 利浩 市立尼崎高等学校長

【事務局】 こども青少年局 こども青少年部 こども青少年課  
教育委員会事務局 管理部 企画管理課

【資 料】 ・次第  
・資料1 教育委員会体罰根絶アクションプランの取組状況（市尼対象取組抜粋）  
・資料2 教育委員会体罰根絶アクションプランの取組状況（全体版）  
・資料3 「尼崎市いじめ問題対策審議会」（第三者委員会）の答申を踏まえた取組状況（市尼対象取組抜粋）  
・追加資料1 議論のまとめ（令和2年6月尼崎市教育委員会/体罰根絶に向けた有識者会議）  
・追加資料2 市立高等学校におけるいじめ事案に関する「尼崎市いじめ問題対策審議会」（第三者委員会）の答申を踏まえた再発防止に向けて

【次 第】 開 会  
1 市立尼崎高等学校の改革について  
2 その他  
閉 会

【議 事】

(敬称略)

稲村

本日の会議について、本来であれば教育振興基本計画のP D C Aに係る議事を取り扱いたかったのですが、市立尼崎高等学校の改革について進捗を確認するために集中的に審議していきます。平成 31 年に市立尼崎高等学校バレー部の体罰が明るみになり、その後、様々な取り組みに係る議論が進んできましたが、昨年度は水泳部のいじめの問題が調査の対象になりました。この一連の取組の中で、学校のガバナンス、そして教育委員会の学校との関係におけるガバナンスが、体罰といじめそれぞれに共通する課題として浮き彫りになったと認識しています。有識者会議の皆さんから体罰に関する様々な提言をいただいた後、取組に着手してきました。いじめへの対応については課題がたくさん見えてくるところがあり、焦りや思いが今回のようなことを招いたのではないかと考えています。体罰事案発生後、柳本顧問に就任を依頼する際の挨拶で「市立尼崎高校の体育科を廃止させないでほしい」とお願いしました。抜本的な改革をしていくことでよき伝統を残し、変えるべきはしっかりと変えるという強い決意を持って改革を進めていきたいと考えております。極端な処方箋ではなく多くの皆さんに愛されてきた市尼を今度こそしっかりと支えていきたいという思いを持って進んできたのですが、議会からも様々なご指摘をいただいております。私も総合教育会議での進捗の確認が遅かったのではないかと反省しているところでもあります。高校生活の貴重な 3 年間で全力で支えていくことを私達は使命としており、この改革にスピード感を欠くことは許されないと考えております。そういった思いの下、本日は教育委員会、学校の最前線の現場のスタッフの皆さん、そして教育委員の皆さん、全員が問題を共有して改革の方向性と強い思いを改めて認識して新しいスタートを今度こそしっかりと切っていく、そのような契機となる会議にしたいと考えております。どうぞ、最後までよろしくお願いいたします。

それでは、教育委員会と学校現場、教育委員会と教育委員さんの間で様々な齟齬が生じている状況の中で、反省点をしっかりと明らかにした上で今後改善していただかないとスタートを切れないと考えておりますので、その辺の説明を含めて教育長より発言をお願いいたします。

白畑

教育長でございます。市長の発言にもありましたようにこの市尼改革に関する一連の事案について、議会や教育委員会において問題となっておりますので、この場をお借りしてご報告申し上げたいと思います。

経営企画部の設置案、校長顧問の配置につきましては、高校改革を進捗させるために教育委員会事務局において発案させていただきましたが、教育委員に説明や報告を怠っておりました。このような事は学校の自治を損なう大きな問題であると教育委員等から指摘を受け、経営企画部については本年の 7 月 30 日、校長顧問については 8 月 31 日付けで廃止することといたしました。事前に学校と十分な協議を行うことなく事務局主導で設置したものでございまして、かつ固定的な構成員に校長を入れなかったことは学校自治を損なうものであると考えております。また、校長顧問は校長に対して必要な助言を行って市尼改革を前進させる役目を担う予定ではありましたが、校長顧問という呼称が校長の上に立つという誤った認識をさせる可能性があることから、いずれも学校の自治を侵しかねない不適切なものであったと考えております。併せて、教育委員会として重要課題であり丁寧かつ慎重な対応が求められる市尼改革に関する決定に際して、教育委員への報告や説明を行わず事務局主導で行ったことについては不適切であったと認識しております。この場をお借りしまして教育委員、学校関係者その他関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。また、この一連の件につきましては学校現場に混乱を生じさ

せていることから、10月13日に指導担当の教育次長が学校を訪問して経緯を説明させていただき予定にしています。今後は教育委員の皆様としっかり議論しまして、学校の主体性を尊重しながら教育委員会事務局として学校に対して適切な支援を行っていきたいと考えております。

先ほど市長からもご発言がありましたように、学校という場所において改革は一刻の猶予も許されないものでありますので、学校をしっかりサポートしてスピード感を持って改革を進めていきたいと思っております。

稲村 議会でも様々なやりとりがありましたけれども、事務手続き等でも様々な指摘を頂いているとも思っております。そのような点で信頼を損ねるとするのは本筋の改革を進めていく上でも非常に勿体ないといえますか、あつてはならないことだと思いますのでしっかり改善をしていただきたいということを申し上げます。また、形式的な報告ではなく取り組みがどのように進んでいるのか、何が課題で進まないのかを明らかにする記録の取り方や報告のありかた、情報共有の進め方が非常に大切だと思いますので、こちらも併せてお願いをしたいと思っております。

では、限られた時間ですので、全体の話を進めた後に、皆さんからご意見をいただきたいと思っております。

今日は、お手元にある有識者会議の議論のまとめに沿って取り組みを確認していけたらと思っております。正直なところ、改革が順調に進んでいけば今回のような事にはなっていないと思っておりますので、まだまだ不十分な取り組み項目がある状況だと思っております。今回の会議の目的は何がどこまで出来ているのか、逆に出来ていない事は何なのか、出来ていない事は何が課題となっていて、それをいつまでにどのように進めていくべきなのかということを確認することが目的となります。このような発言は失礼だと思っておりますが、出来ていない事を出来ていると無理矢理答えていただく必要はありませんし、難しいことがあればその難しさを共有することが大切だと思っております。実のある会議にしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。併せて、有識者会議でいただいた提言に沿ってアクションプランを進めていくために、取り組み状況を把握していただいていると思っております。この体罰の問題は小学校や中学校、高校、保育所等も含んだ尼崎市全体で取り組んでいくものですが、とりわけ市立尼崎高校、特に体育科が取り組みの中心になっていることは事実でございます。作成いただいた、市尼の部分を取り出した表も皆様のお手元にあると思っております。これに沿って進捗を確認しながら、議論のまとめを見ていきたいと思っております。それでは、こちらの取り組み状況のご報告をお願いします。

高橋 (資料に基づき説明)

稲村 では、ただ今の報告に対して有識者会議の議論のまとめに沿って確認をしていきたいと思っております。もちろん、有識者会議の中の提言は進め方やアイデアの一例を示しており、例えばという形で協議しているものも沢山あります。問題は何が大切なのかであり、現場がより良くなるように最適な手段の選択をしていただければと思っておりますので、ここに書かれている事を一言一句漏らさずする必要はないということをお願いしておきたいと思っております。

まず、1の体罰が発生する背景・組織風土の課題について、ここでは部活動の方針を明らかにし、メンバーが共有できるようにしておくことが提言されております。この詳細は16ページの上にある、教育委員会及び各学校版の部活動方針の策定等に記載をしており、どのようなことを盛り込むべきかを提言していただいております。また、5月策定の市立尼崎高等学校の部活動方針について、私もここで本日初めて拝見しましたが、作っていただいた部活動方針が

「1. 部活動方針」、「2. 休養日等の設定」、「3. 効率的・効果的な活動の推進」という構成になっていると思います。この活動方針の共有が体罰の防止や風通しのいい民主的なクラブ活動の運営に欠かせないだろうとお話いただきました。特に盛り込むべき「1. 部活動方針」について、部活動を通して何を育むのかという部活動の意義を明確に示すということと、勝利至上主義に陥るのではなくスポーツを通じて人格の完成を目指すものであることの2点をしっかりと踏まえてこの方針がつけられるべきだというふうにご指摘をいただいています。この市尼の方針を見ると、「3. 効率的・効果的な活動の推進」で指導においては、体罰・暴言・セクハラを根絶する、生徒間においても行き過ぎた指導・暴力・暴言・いじめ等は許されないという記載はありますが、スポーツを通じて人格の完成を目指すものであることは当然に共有されているものと理解してよろしいでしょうか。

高橋 そうですね、本校の部活動の顧問達は部活動方針の知・徳・体の調和がとれた人間形成を目指すことを目標にしておりますので、その部分について明記はされてはおりませんが、共有されているのかなと思っております。

稲村 それは体罰が明るみに出る前から掲げられていた方針ではありませんか。体罰事案を繰り返し発生させないためにどのように変えていくのかがはっきりとわかる活動方針を今作成するのがベターだと思います。

体罰を根絶するという記載を加えればいいということではなくて、こちらのまとめにあるような部活動の意義やプレイヤーズセンタードについて、口頭での補足があるのではないかなというのが私の感想です。ちなみにプレイヤーズセンタードは、力や暴力で部員をコントロールせず、選手達の能力と意欲を引き出すような指導を目指す考えであり、エースプロジェクトでも中心に掲げられております。生徒との対話と自主性を重視することが大事だと書かれており、これから生まれ変わっていくことを示すには、顧問会議やキャプテン会議で共有されているのかどうか大事だと思います。

また、受験先を選ぶ中学3年生や入学してくる新入生の皆さんに、新しい市立尼崎高等学校の部活動の在り方と方針を理解してもらった上で、市尼を選んでもいただかないといけません。体罰事案発生後の様々な課題を踏まえた市尼の方針がしっかり説明会等で説明出来ていたのかどうかも非常に重要だと思います。本日の資料にはありませんが、もう一つ体罰等防止ガイドラインを令和3年7月に教育委員会で作っていただきました。このガイドラインに沿って市尼に限らず色々なことが進んでいると思いますが、家庭地域との連携を強めるという項目について、体罰によらない指導、信頼関係にたつ教育を確立するためには保護者や地域住民、関係機関等との情報交換や意見交換の場を設けるなど連携を強め、学校運営に理解と協力を求める等開かれた学校づくりを進めることが大切との記載がありました。また、たとえ保護者等が体罰を容認し求めたとしても、しっかり否定し、保護者等に体罰が決して許されない行為である事を説明する必要がありますとも示してあります。その他にも大事な記載がありますが、このような点をしっかり進めていき、市尼は変わっていくんだということを発信していく必要があると思います。5月に出来たものですので、まだ受験者向け説明会では使われたということはないのでしょうか。来年度入学してくる子への説明会は終わったのでしょうか。

高橋 1回目は終わりました、2回目は11月末にあります。

稲村 その説明会ではこの新しい部活動の方針の説明はあったのでしょうか。

高橋 そこでは出来てなかったと思います。

稲村 しっかりと説明をしていくべきだろうと思いますし、この紙を配るだけでは市尼がどう変わろうとしているのかを、漏れなく伝えるには不足していると感じますので、教育委員会の方で議論いただけたらと思います。口頭で補足していただく形でも良いと思いますが、勝利至上主義に陥るのではなく、スポーツを通じて人格の完成を目指しており、その一環で勝利を目指して皆で技を磨きチーム力を上げていくことや、選手の主体性を育む事を目指していくスポーツ教育を目指しているという事をしっかりお伝えいただきたいと思います。そのためのカリキュラムの改編であり、何故変えたのか、どう変えたのかをこれから入学してくる市尼を目指す人にお伝えしていく事が大事ではないかと思えます。

まとめに戻りまして、17 ページには部活動単位で盛り込むべき事項の例があります。生徒の活動意欲と自主性を尊重するために何を重視するかをしっかりと押さえた方針を作る事が望ましいという提言があると思います。各方針の作成途中だとは思いますが、活動意欲と自主性をしっかりと尊重するという観点を持って方針が掲げられ、かつその方針が各クラブのメンバーに共通理解となっているかが重要です。また、それがキャプテン会議等を通じて確認出来るような取り組みをブラッシュアップしていけばいいのかなと個人的には思う次第でございます。

では、最初の取り組みに戻って「3. 学校の危機管理」からみた課題について、危機管理対応マニュアルの策定をしていただきましたので、活動中に怪我をしたりなど、不測の事態が起きた場合にしっかりと対応が出来るような体制になっていると思います。こちらはどこかに公開されているのでしょうか。内部のマニュアルなのでしょうか。

高橋 職員会では配っておりますが外部には出しておりません。

稲村 どこからが外部かについては議論があるかもしれませんが、特に遠方での試合や合宿、学校を離れて活動する事が多い部活動に所属する生徒や保護者、また教育委員会事務局などの然るべきところには、しっかりと備え付けていただいて、このマニュアルが実行力を持つようになればいいと思います。私もまだ見ていないので、良ければ一部いただけたらと思います。

徳山 1 番に戻りまして、4 月に教育委員会が策定した市尼の部活動方針の下線部分について、年間活動計画を作成して管理職に提出し、年度当初に生徒や保護者に伝えること、さらにホームページに年間・月間活動計画を掲載する事となっています。ホームページを拝見するとまだ掲載されていないようですが、掲載する必要があるとの認識はおありですかね。

高橋 認識はしておりますが、載せていなかったのが早急に対応します。

徳山 さらに、年度当初に活動計画を生徒・保護者に伝えることも義務付けられているようですが、こちらについてはいかがでしょうか。

高橋 全校、保護者を集める機会がコロナの関係上ありませんでした。今後、保護者会等がありますので、そこで提示させていただこうと思っております。

徳山 了解です。

稲村 コロナ禍ということで色々ままならない事も多かったと思いますが、ここからしっかりと進めていけたらいいと思いますし、進捗管理も出来たらと思っております。

中平 プレイヤーズセンターの観点を持って作成された各部の指導方針にはガイドラインがあったり、議論のまとめ等ではキャプテン会議の設置や生徒の自主的な運営を目指していくという言及があったので、大変安心しているところです。部活動の運営に関して、生徒自身が批判的に捉えて検証していくことを目指したり、相当のレベルの選手であれば自分達自身の目標を設定していくこ

とが必要なことかと思えます。生徒側の主体的な関与についての指導方針に進捗があれば教えていただけたらと思えます。

高橋 指導方法は当然顧問が決めるのですが、今後は生徒中心の部活動を目指すために、やり方や子どもたちの自主性を考えることは当然大事だと思います。本日はお見せしておりませんが、学校要覧の中にエースプロジェクトからの流れで重点目標を私が作り、その中にアスリートセンタードを目指すという目標を設定しました。ただ、部活動の方針に盛り込んでいなかったというのは反省しております。私が作ったものを読ませていただくと、「アスリートセンタードに基づく部活動等を目指すという事で、選手が中心、指導者が伴奏者であり、コーチは選手の育成に研鑽励み、成長し続けグッドコーチを目指す」ということを掲げております。市長及び中平委員のご指摘を受けましたとおり、この辺の文章が部活動の方針で欠けておりましたので再度ブラッシュアップしながら盛り込んでいきたいと思っております。

白畑 我々3月に部活動方針を立てて学校に周知しているのですが、市立尼崎高校で5月に作っていただきましたが、それを点検していなかったことは我々の反省点でもあります。双星高校もございますので、今後検証していきたいと思えます。

中平 今回冒頭に市長と教育長からお話があった問題等も含めて、行政の中で完結するような文書の作り方が非常に多いかなと思っております。つまり、教育委員会のガバナンス、学校の管理あるいは指導、サポートという形で完結していて、議論のまとめであったり体罰防止ガイドラインの中では生徒であったり、PTAの皆さん、それから地域の皆さんの意見を聞くように、あるいは主体性を盛り込むようにというのがあるんですけども、もう少し見える形で生徒の主体性が体制の中で、取り込まれる必要があります。そうしたことがペーパーの中でも落とし込まれる形になっていくことが望まれます。今後そういうところも注意しながら見させていただこうかなと思っております。

稲村 危機管理マニュアルについては作成が終わり、取り組み済みとなっております。4番の教育現場への支援体制の充実ということでスクールソーシャルワーカーの配置等とは一定完了はしているかなと思えます。これも有事の際にきちんと機能するのを見る必要がありますので、私達の共通見解かなと思えますが取り組み済みとするには躊躇があり、では取り組んでいないのかと言われると取り組んではいるので、スクールソーシャルワーカーの配置等については取り組み済みということでいいのかなと思っております。ただ、どれぐらいの事例に関わっているか、ケース会議で気になる点がなかったかななどのそういった中身の活動状況を押さえていくことが極めて大事だと思います。何人配属した、何時間勤務したということではなくて、どんな案件があり、どのように対応が進んだのかという事こそが大事ですので、そういった点を今後しっかりと報告して共有し、進捗を確認できればと思っております。

続きまして、5番のスクールガバナンスと部活動について、このあたりからだんだん難しくなっていきますが、提言の中身を皆さんと一緒に見ていきたいと思っております。平成31年度の体罰事案の時に私達が痛感したことは、学校の管理職がほとんど情報を持っておらず、分からないことが多すぎるという事でした。クラブ活動は、学校教育の一環だというふうに位置づけられているにも関わらず、いくら何でもこれはまずいのではないかということで、学校単位でしっかりと情報を共有し、必要なマネジメントを進めていくことの重要性が指摘されました。特に議論のまとめの18ページに図3部活動のイメージ図と19ページに大事なことが書かれており、図3のイメージのように、部活動の運営は学校の教育活動の一環という側面と競技団体の下部組織という2面

性を持ち、また、顧問の先生もその2面性を持ちます。例えば、バレーボールでは春の高校バレーという全国的な大会がありますが、その主催者は日本バレーボール協会であり公益財団法人全国高等学校体育連盟バレーボール専門部がその加盟団体として位置づけられており、部活動は教育活動であると同時に各種競技スポーツの振興までも担っています。これらにOB会や保護者会等も加わる中で、部の方針、運営、予算などは様々な影響を受けるため、学校組織のみによる制御が困難な状態です。もとよりこれを否定するものではありませんが、相互に良好かつバランスよく機能することが求められると有識者会議でも発言がありました。部活動担当の顧問が競技スポーツばかりに関心が偏り、競技団体の方針は重視するものの、教育という観点から学校管理職との関係は重視しなくなるなど、本来あるべき学校管理職の関与が及びにくくなっている現状があるということを経験した市尼調査にあたった有識者会議の先生方は指摘してくださったわけです。私たちはここをしっかりと改善していかないと再発防止に取り組んでいるとは言えません。このあたりは突然変わるということではなく、1個1個こういった具体的なアクションプランの取り組みを積み重ねていくことで実現するものだと思います。両面があること自体は事実として、そのバランスを考えていくということの難しさもあるかと思いますが、危機管理マニュアルができましたので生徒が怪我をした、いきなり意識を失ったという時に学校側が何も分かっていないということは無くなったのではないかと期待をしております。この辺は教育委員会のほうでチェックをお願いしたいと思います。

続いて、20ページ以降に進みますが、顧問は一体どういう存在なのか、学校管理職と部活動顧問の権限と責任をしっかりと明確化していく必要があるだろうということがこの21ページ以降に記載があります。学校と部活動顧問の権限や立場役割という事もそうですし、22ページを見ていただくと監督とコーチの職責について、部活動の最終責任者は学校管理職であることの意識の徹底、そういったことをしっかりと進めていくための学校管理職が部活動の状況を把握できる仕組みづくりが必要との記載もあります。顧問会議について、開催していただくのはいいのですが、定期巡回することそのものが目的化するのでは変だと思います。一体何のために巡回することになったのか、この会議をすることになったのかということを押さえて、情報を共有しないと意味がないと思います。この仕組みが検討されているのか、もう一度確認したいと思います。その目的が達成されるためなら会議の名前とか頻度とか実情にあわせて校長先生がコントロールしてくれたらいいと思います。このあたりはかなり改善されたと期待していても良いのでしょうか。

高橋 基本的に部活の顧問というのは校長が任命いたしますので校務分掌の一環であり、学校教育の一環で学校教育活動の一部であるということ徹底して言っております。私達管理職が週に1回程度、様子を見に行っております。これは監視するという意味ではなく生徒が生き活きと活動しているのかという状況を見るためのもので、これも生徒のためかなと思っております。少しずつ浸透していっているのではないかと私は感じています。

稲村 24ページについて、先ほど徳山委員からご指摘がありましており、学校長が定める部活動方針の伝達や共通認識は年度当初にするのが普通ですよということが当然の提言として書かれており、まだ始まったばかりなので、しっかりと進めていってもらったらいいいと思います。

大きな2番の児童生徒達から意見が言える仕組みづくりについて、中平委員からご指摘があったことだと思います。上から与え押しつけるということではなく、生徒自らが実感を持って方針の取り組みを進めていけるようスポーツ指

導を目指していこうということですので、様々な仕組みづくりやキャプテン会議、26 ページの生徒たちの主体性をしっかりと発揮させるツールの一つとして、このようなキャプテン会議のようなものも設置してみたらどうかという一つの案だと思います。どのような形がいいのか、例えばクラブ全体でしっかりとミーティングをしたり、部を超えたノウハウの共有も含めて刺激し合い切磋琢磨できるようなキャプテン会議も一つの案だと思います。その辺はしっかり進めていただけたらと期待をしています。

太田垣 校長先生からお話いただきましたアクションプラン全体的な印象なのですが、体罰は閉ざされた密室で身内だけで行われてきた歴史、それをずっと継承してきたということが大きな要因になっていると思います。生徒のメリットになることを伝えるよりも、教える側のメリットになることが行われてきたというか、それが生徒をコントロールする体罰につながった大きな要因だと思います。先ほど市長が仰った、何が原因でこの改革が進まないかについては、今回一連の事例をみていきますと、スピード感のずれというのを感じました。教育委員会の事務局側と学校側、そしてその他の組織が改革を進めていくスピード感の違いというものが、大きな問題となっていると思います。この価値観の違いやギャップを埋めるため、改革はすべてのグループ、組織が一丸となって進めていかなければなりません。少しでも価値観がずれていたらハレーションが起こると思うんですね。ここのスクールガバナンスと部活動、学校側、先生方とPTAの方の足並みを揃えるためにどういうプランを立てていらっしゃるか。ここがすごく大事だと思いますので、考えているところがあればお伺いしたいと思います。

高橋 5番の学校管理職によるガバナンスの強化という部分について、さきほど委員が仰ったように閉ざされた空間という部分のご指摘がありましたので、我々管理職が出ていくことにより、例えば体育科の先生や普通科の先生も子どもたちの様子を見に行けるような空間にしていかなければならないと思っております。体育科と普通科どちらも学年会を一緒にしておりますので、様子が見に行けたらと思っております。それ以外に地域に開かれた学校を目指し、どんどん地域の人たちや保護者も来て見ていただけるオープンなものにしていきたいと思っております。これから、PTAや地域の方たちに協力をいただいて進めていきたいと思っております。

太田垣 改革とは価値観を大きく変えることなのでとても難しいと思います。私も文化や伝統に携わっている人間ですので、これは時代にそぐわない、だから変えようと思っても、ダメなところだけが変わるのではなくて、それに付随した伝統文化も全部変えていく必要があるのですごく難しいと思います。スピード感を出すには足並みを揃えてから、グッと進むことではないかなと思いますので、語弊があるかもしれませんが、スロースタートでそこからスピードを上げるようなやり方がいいのではないかなと思っております。

稲村 経営企画部の大きな反省を踏まえて、今後はどうするかを最後に確認していきたいと思っておりますが、狭い世界でするのではなくて大きく開いて多くの方々のご意見をいただきながらオープンな改革を進めていく必要があると思います。またそのご意見を後程あらためて発言いただけたらと思っております。

まとめの27 ページにある部活動予算や備品等の実態からみたスクールガバナンスの課題については、取り組み済みにしてくださっているのですが、私が聞いた話から判断すると、これを取り組み済みにしてしまうのはまだ早いのではないかなという印象を受けておりますので、質問をさせていただきます。有識者会議で調査をした結果、強豪校といわれるような部活動になればなるほど、

様々な費用が必要になるため寄付を募ることもあれば、各ご家庭で負担をいただくというような部分もあることが分かりました。ただ、市立の学校ですので各家庭の負担が出来るだけ少なくことが当然望ましいわけですが、私も予算を預かる者として、公教育のミニマムとして学校予算で賄うべき部分がどこなのか、それぞれのクラブで少し頑張っでプライベートで出していただく部分がどのあたりが妥当なのか、議論が必要な部分があると思いますので、お聞きしたかったのですが、有識者会議のまとめの 27 ページでは負担状況をそもそも明らかにすることが難しかったとありました。各部活動において、全部員から一律に徴収する部費のほか、遠征に係る実費などその都度必要となる経費、さらには保護者側で管理している、いわゆる保護者会費などがあり、その全体像が各部活動において必ずしも整理できているわけではなかったことが原因で明らかにすることが難しく、結果として部活動の運営の不透明さを助長し、学校の管理が及びにくくする負の側面を生じさせていることが懸念されるという指摘を受けました。何が良い悪いという以前に、色々な懸念事項があるにも関わらず実態が十分にわからないことが問題だという記載になっております。先ほどの取り組み報告ですと、部活動費に組み込まれる生徒会費の使途の透明性や説明責任の観点から、生徒会費・クラブ振興会費の見直しを毎年実施しているとありますが、このまとめを受けて実施することにしたということですか。

高橋 これは毎年、保護者 PTA と学校関係者が入って、いろいろな形で改訂をしておりますので、今回のような事案を受けまして、しっかりみていこうということで書かせていただきました。

稲村 この 27 ページ、28 ページの指摘を受けて、改善された部分は何になりますか。

高橋 例えば昨年度はコロナの関係でクラブの大会がなくなりましたので、一部は保護者に返金という形をとりました。

稲村 いえいえ、仕組みの改善ですね。透明性が十分じゃないという指摘になっていきますので、それに対して書類の提出等々が義務づけられたり、例えば積み立てが必要な部活動は保護者会費や後援会費として保護者が管理しているということですが、これがいくらぐらいで何をしているのか校長先生はご存知なのですよ。

高橋 基本、部費というものはありませんので、保護者会費でどれぐらい集めているのか、学校でも把握しています。

稲村 そういった資料は必要であれば出せるということですね。この時は出せなかったけれど、今は出せますでしょうか。

高橋 はい、出せます。保護者から集めているお金がありますので。ただ、我々は管理しておりませんが、保護者が集めているものはあります。

稲村 つまり、今のクラブ活動の成果を求めていくにあたり必要な経費を組み合わせで支えているわけですが、その全体像を校長が把握していなければ市長に対する予算要求も適切に出来ないということになりますし、また公立の学校としてあまりにも過剰な家庭の負担になっているとすれば、税金でしっかり支えていく部分となります。例えば寄付を呼びかけて、オール尼崎でやっていけたらいいなという部分もあると思いますし、十分に議論しないといけないなと思っておりますので整理出来ていないから全貌がよく分からないという状態で留まっているというのは言語道断だと思います。クラブ振興会費の見直しを毎年実施しているという以前からの取り組みではなく、ここで指摘されていたことを改善するための行動に基づいて全貌は明らかにしていただくのがいいと思うんです。尼崎市として学校予算を出して支えている部分がいくら、授業料的に入学者に支えてもらっている部分、生徒会から入れている部分がいくら、遠

征費とか備品購入費とか。実はここには熱心な顧問の先生が身銭をきって、クラブを支えるような実態も見受けられるということも書かれているわけです。それに甘えて依存する学校運営は適切ではありません。そういった実態を踏まえて予算の議論をしていきたいと設置者、予算編成を預かる私としては思います。

このまとめの中では、何が問題なのか問題じゃないのかまだ分からないという段階ですね。資料を分析するというところからスタートかなと思いますので取り組み済みとしているのはいかがなものかと思います。

中平 今、市長のほうからお話をいただいた件に関しては、私自身も明瞭に理解したいというところでお尋ねしますが、この中に経費等から出ているお金、つまり部費や保護者会費は保護者のほうで管理していただいているので明確に出やすいと思います。例えばクラブ活動をしている生徒さんたちの電車移動は、おそらくまとめ払いではなくて各生徒さんがお金を負担して交通費として出している部分もクラブ活動にかかる経費だと思うんです。私どもも大学でスポーツをしておりましてので学校等が練習場所として使えない場合は会場等を借りますが、それは自分たちの練習時間を確保するために部費等でお金を出す整理をしたときに、これは認められるのか認められないのか必ずしも明瞭でない部分が出てくるかと思うんです。今、市長がおっしゃったお金の全体像をどこまで把握されるご意向なのかも見えてこないかと学校側も返事に困るだろうし、場合によっては膨大なお金が出てくるケースもあろうかと思っています。今のお話のイメージというのはどのあたりなのか私自身が確認したいとお伺いするのですが。

稲村 学校を通じることなく外部コーチや指導者に、交通費や合宿費などの項目の洗い出しを頼む事はさすがにないです。よく分からないので、色々なことが費用化されているのであれば、まずその状況を1円単位というより、どういった項目にどういうふうに充てているのか、例えば生徒会費から一部クラブ振興会費に回ったりしているようですが、それぞれに報告がなされているのか。そして支出への理解は得られているのかを知る必要があると思います。今はPTAの在り方だって議論になっているわけですよ。中学校レベルでもPTA会費からクラブ振興会費が出ていることについて、肯定否定様々な意見があります。そのような事が、保護者や生徒から意見が出たりする状況もあり、理解がしっかりと得られているのかどうか確認しないといけないと思いました。誤解のないように言いますと、この間の経営企画部も会議の中で、顧問のクラブ活動費の改善提案として配分を見直すような内容もあったと聞きました。しかし、勝利至上主義でなく学校教育としてふさわしいスポーツ教育を目指していく中で、成績の序列でお金の配分を決めたりするところはすぐわないのではないのかと思っています。どれだけのお金が何に使われているのかということが明らかになり、そこから次の課題が見えたら課題整理をし、次に進められたらと思っています。

高橋 学校徴収金になると思いますが、例えば本校では課外クラブ振興費の中に生徒会からの補助が含まれており、両方とも会計をきちんとしております。現時点では細かくは言えませんが、原則部員数に応じて平等に配分しておりますので強いクラブが多くもらうことはなく、基本的に部員数に応じて配分しています。その辺はきっちり説明出来るのかなと思っています。中学校よりも当然生徒数が多いので金額は高くなります。

徳山 公認会計士とかに相談されたりしたことはありますか。

高橋 そこまではやっていないと思います。当然、PTAの方も入りますし学校の中と外でチェックはしていただいています。

- 徳山 議論のまとめのページは重いと思います。私は行政職と教育委員会の間の共通言語が無いと強く感じています。一番おかしいことが起こりやすい人事や会計に関して、行政は市長がトップにいて、その市長は議会や市民の目があるのですごくシビアに見る体制が出来ていると思います。僕もスーパーバイザーとして学校現場の相談にのり続けてきましたが、高橋校長だけでなくどの学校の校長も、学校の色々な事を把握出来ていないという問題があります。教育現場というのは独立した現場でありますので、それぞれの現場の人たちがそれをどうしたらよいかを知らないなということ強く感じているところなんです。これから会計の資料を出していただけるということでもいいですね。
- 高橋 年間の収支につきましては、残していますので。
- 徳山 フローのところについてはチェックさせていただきたいと思います。
- 稲村 そのあたりはぜひ教育委員会のほうでチェックしていただき、課題がもしあるようであれば、それを共有して改善すればいいと思います。何をどう改善するのかという段階までまだいっていないのかなという認識ですので、今回この表は一部取り組み済みではなく取り組み中とし、引き続きのチェックをお願い出来ればと思う次第です。
- 中平 先ほどお尋ねした件ですが、公立学校の場合は家庭負担を出来るだけ少なくするという観点で補助等を出している場合、部費や保護者会費など明瞭に会計の中に組み込まれているものや、例えば移動費等の個人負担の分までも収支の報告をいただくという事でしょうか。そこまで細かな個人の移動費等は個人負担として把握しなくてもよいということでしょうか。
- 稲村 活動実態そのものを理解していませんので、説明出来るようなチェックの仕方を教育委員会の方でお決めいただければありがたいです。
- 中平 先ほど市長から予算措置のお話がありましたので、学校教育現場に対する部活動等の補助を予算の対象とするならば厳密に部活動費を算出する必要があるかと思い尋ねました。補助をいただくには学校のクラブ活動に対してポケットマネーから支出しているお金も含むのでしょうか。つまり、部活動で生徒が1円も出さないような形にして、学校と市から補助いただくのでしょうか。
- 稲村 現時点で申し上げますと、高校は義務教育ではありませんので、そういう意味では優先順位として、義務教育のほうに予算をしっかりとつけなければならぬという認識です。しかしながら県立高校が主流の中で、尼崎市民の皆さんの支えで100年もの歴史を重ねてきた市尼をはじめとする市立高校においても、しっかりと人材育成が行われるようにサポートしていきたいと思えます。ただ、コロナでタブレットを配布していますが、そのタブレットは自費です。タブレットは自費だけどクラブ活動の交通費を1円も出させないのはおかしいと思いますし、その辺は実態をみた上でミニマムにやるべきだと考えています。尼崎市民の税で支えていく部分はどこなのか、皆さんに協力を呼び掛けていく部分はどこなのか、やはり自費でも少し出していただくような固有の経費は何なのか。中身をみてからの議論かなと思っております。
- 中平 あと、もう1点いいでしょうか。大変重要だと思うのが、スクールガバナンスの20ページの校長による校務分掌決定の必要性というところです。こちらについては市教委の法規等の中でも学校長の権限としてありますし、学校内で分掌決定権のある校長の責任は大きいと思います。それを通じてしか我々教育委員も学校現場の状況であったり、ガバナンスが効かないと思うんですね。ここで問題にされているのは組織文化の中で、いわば「なあなあ」であったり、慣習のなかで顧問の任命等や学校の分掌が行われてきたことかと思うんです。ここでは明確に校長の権限を發揮していただく。あるいは、ほかのところでも問題となっているように、学校管理職の関与がしっかりと及んでいる体制に変

革していただく必要があろうかと思うんですね。今後なんらかの形で、例えば報告書等を顧問の先生に毎年出していただいて、そのうえで翌年の顧問の任命を判断するとか、もう一つは指導者と顧問が特定の人に偏っているというところも組織の問題としてあろうかと思うので、その辺の入れ替えのような組織の見直しも可能性としてはあろうかと思うので、もし見通しがあれば教えて下さい。

高橋 本来、校長が校務分掌の決定をするのですが、年間通じて面談もしております。今回6月から7月に1回、2学期に1回するのですが、先生方にはその業務負担もありますので私が面談資料を作成し、今の顧問の状況についての話をさせていただきました。それをもとに週に1回確認に行ったり、今回体育科の先生につきましては指導内容や生徒の状況をどのように掴んでいるのかについて、夏休みに1回面談しておりますので既に2回面談しております。例えば一つ例をあげますと、水泳部の顧問は今回事案がありましたので、学期に1回、水泳部の顧問と生徒の面談を行い、その面談記録をスクールカウンセラーに渡し、スクールカウンセラーが見た段階で、どういう風に対応するのかを1学期に検討しました。2学期3学期と出来るだけ面談を重ねながら、その顧問の資質を捉えつつやっております。これが少しずつ色々な顧問に波及していったらいいかなと思っております。顧問決定の時には、出来るだけ多角的に見るために、私だけでなく教頭にも意見をもらいながら3月に決定するという形になると思います。

中平 現時点で丁寧に取り組んでいただいているというのは重要だと思うんですけど、将来的に高橋校長や教頭がいらっしゃらなくなった時に、その体制を維持するために、ある程度文書化をして今後も引き継げるような体制は整えられていますか。

高橋 文書化しておりませんので、そのあたりは検討させていただきます。

中平 ガバナンスの改革をした時の体制が維持されていくためにも、明瞭な形で我々に示していただきたいと思っております。これは教育委員会事務局も学校側もそうなんですけど、今の取り組みは問題直後ということもあり熱心にやっただけで理解しているつもりです。問題は時が経った時にもこの反省が絶えることなく継続していけるように、明瞭な形で見せていただけたらなと思っております。

稲村 そのあたりはまだ残る大問題であり、進路指導の在り方等も関わると思っております。スクールカウンセラーが入って面談する仕組みがあるのはまだ水泳部だけということですか。

高橋 水泳部が特に事案がありましたので、今回は重点的にやらせていただいています。

稲村 もしかしたら顧問抜きでスクールカウンセラーに入ってもらって、生徒の本音を聞いてあげるような場面があった方がいいかもしれません。また、このような取り組みを水泳部だけではなく色々な部に広げていこうとしているんだという理解でいいんですね。

高橋 そういった取り組みが出来たらと思っております。

稲村 そのあたりも今後の宿題、目標そして進捗管理の中で進められたらと思います。

では、6番の開かれた部活の実現について、ここは比較的うまくいっている項目ではないかと思っていて、私は心配ないのかなと思っております。皆様から何か質問等ございますか。取り組み済みということで進んでよろしいですか。

中平 大変評価の高いところかと思うんですけど、提示いただいている合同練習などは、特別な行事ごととして行われていますよね。提言の中では、日頃体罰があり、特定の学校参観の時だけきちんとした指導をしているのではないのかと疑われないように透明性をどう高めていくかが重要です。地域の人が学校現場の中に自由に入って来ることに関して警備上問題もあるかと思いますが、日常のクラブ活動の透明性を高めていく取り組みが試みられているかどうかお伺いしたいです。

高橋 例えば、ソフトテニスや女子バスケなどの子どもたちが一緒に出来る種目につきましては、日にちを問わず来ていただいています。特に夏休みは色々な小学校中学校が、テニスや水泳をしたりしています。特に水泳に来ている中学生は、毎日のように来ています。そういうこともしていますので、このイベントがあるからではなく、それ以外でもウェルカムでやっており、そこは中学校の校長会に私の方から説明に行きました。そこから、どんどん顧問同士でやり取りしており、小学校も同様の取り扱いをしています。

中平 日常の部活動が行われている横で開放されているという理解でよろしいですか。

高橋 開放というか一緒にやっているという形です。また、空いている時は開放する部もあります。

稲村 取り組み済みといっても終わりがあるわけではありませんので、引き続き進めていただけたらと思います。

それでは続きまして、資料1の3ページについて、次の項目も大きな項目です。体育科の教育課程の見直しという事なんですけど、もちろんカリキュラムの変更自体は形式的には進んでいると思いますけれども、冒頭申し上げました通り、今回の改革の精神がこのカリキュラムの変更に宿っているということが極めて大切だと思っております。また、授業の中身はもとより41ページの運動部活動と専門科目の一部との一体化が掲げられております。この当時、体育科を有する高校では、この専門科目の一部が運動部活動と連動している実態がありました。具体的には、多くの高校で学校設定科目として専攻実技の設定やスポーツ及びスポーツ総合演習の時間に生徒が所属する運動部の活動を行い、体育科の生徒は週に2時間分は普通科の生徒より早く部活動に参加をし、練習をしているという実態がありました。学校の授業内容とそれを実践的に進めていく学びの場である部活動がリンクしていること自体は特に問題ないと思うんですが、授業としてしっかりとコントロールが効いていて、かつ良い循環になるようなカリキュラム変更になっているのかどうかという点、特にこの部活動との関係について具体的にどのような改革がなされて取り組み済みになっているのかという点が私の確認事項です。もう少し説明をしていただいてもよろしいですか。

高橋 その取り組みにつきましては、資料3の2枚目のいじめ防止の取り組みについて、部活動と一体となった専門科目の廃止など体罰根絶有識者会議の提言を踏まえカリキュラムの改革をしています。専攻科目の廃止と体育科必修科目スポーツVIとスポーツ総合演習見直しというところで、スポーツVIにつきましては身体づくり運動ということで、シラバスも変えております。この中で例えばパソコンを使った色んな分析をしている生徒たちもいます。もう一つは春先3月に10種目のスポーツの中から3つ選択できるようにしております。また、部活動差別化のため通常授業の体操服を着ること、この総合演習の中では協定を結んでいただきました体育大学の講座をここに取り込みまして「運動生理学」であったり「スポーツ心理学」というのを入れております。コンディショニングの講座も各講座に入れておりますので、部活動の延長ではない形で進め

ております。

稲村 部活動の所属と新しいカリキュラムの選択状況をまた資料でみせてもらえたらと思います。クラブ活動とここがリンクしていること自体が絶対駄目なわけではないと思うんです。例えば怪我をして、事実上クラブ活動のメニューがこなせてなかったら、学校の単位も取られないというのはおかしいだろうと思いますし、やはりクラブでのコーチングであったり、チームマネジメントであったり、身体のケアであったり、そういったことが実践的につながるような新しいカリキュラムであってほしいなという思いです。しかも科学的な分析に基づいた教育が、最先端でサポートとして入っていけばいいなという思いがあります。その辺がどういう風にバージョンアップを図れているのか、図ろうとしているのかについては、教育委員さんもまた現場を見に行っていたり、私も誘っていただいて、そういうところも開かれた学校として授業参観というかオープンスクールみたいところでPRしていくと、より新しい市尼の姿を理解していただけるかと思います。そしてそういったことを魅力に感じて新入生が入ってきてくれるという好循環が出来るといいのかなと思いますので、ぜひしっかりお願いしたいと思います。

高橋 ここにある研修部とは、たとえば怪我をした子達もここに入ってきて、コンピュータで作業できるような形で授業を進めております。また、ここに特化したい子ども達も入ることができます。そういった形でケアもさせていただいております。

白畑 校長先生が言われましたけども、部活動を辞めると、なかなか単位設定が難しいところがあったんですが、それを見直して改善されたということになっております。それはまた、資料を出していただいたらいいと思います。

稲村 大きな前進だと思います。一定取り組み済みという確認でもいいのだと思いますが、当然新しいカリキュラムが実を結んでいくためには数年かかるのかなとも思います。こういった点はそれぞれ色々な専門家のアドバイスであったり、外部からのアドバイザリーボードから意見をもらったりとか、中身が高められていくように出来たらいいんじゃないかなと思います。

次、7番目の部活動等と保護者との適切な関係についてです。これは、先取りしたやり取りが行われていまして、受験する段階でしっかりと市尼の特徴、強みを理解して市尼を目指してもらいたいですし、入学してきた人達にもしっかりと市尼の理念・伝統・良いところや目指すべきビジョンを共有して、学校生活をスタートしてほしいということがあります。こういう一連の取り組みがしっかりと浸透すればと思います。まず1番の方は、保護者の意向を隠れ蓑にして、不祥事を無かったことにするような判断は断じて許されませんよという事ですが、ここは危機管理対応マニュアルに則り、しっかりと情報が伝達されるようになっていくということですね。いじめの時にも、いじめ0を目指すのかというような話がありまして、体罰は原理的に許されませんので0を目指すしていくべきなんですけれども、いじめというのは、なかなか無くなりません。大人社会でも非常にいろんな人間関係の悩みは尽きないんですけれども、無くならないものを無くすと言って、隠蔽につながるのは良くないということを常々言っております。そのあたりは早期発見・早期対応をしっかり進めていこうというのを、いじめ対策では共通認識を口酸っぱくお願いしているところです。体罰や怪我の事案に関しても、市尼で確認された体罰はあまりにも議論の余地のない暴力でした。怪我也生じていましたので、論外なんですけれども。例えば言葉遣いとか判定が微妙なケースは0ではありません。そういったことが体罰か体罰じゃないかと問題になれば、大変なことになるからなるべく言わないでおこうというのは本末転倒だと思うんです。尼崎市では体罰の認定作業

の中で、体罰となると即行政処分とリンクしていたので、なかなか本人も周りも体罰じゃないと主張するため、不適切な指導とジャッジをしっかりとできるよう、個別に議論していく枠を作りまして、決して許されるわけではありませんが、現実にとった取り組みをこの間悩みながら苦しみながら編み出してきたというところがあると思っています。そういったことも踏まえまして、こんなことぐらいと隠すことに繋がるのではなくてしっかりオープンにし、バランスの取れた議論をするんだと。ダメなものはダメ、守るべきものは守るという形でバランスの取れた取り組みをしていくということは、皆さんと確認した上で適切な情報共有が出来たらなと思っていますので、よろしく願いいたします。これはマニュアルが出来ているということですので、いったん取り組み済みでいいのかなと思っています。

次、2番の進路指導の点です。これはまとめの方でもいろいろとご指摘があったわけなんですけど、バレー部で体罰が起きた時にコーチが体罰の実行者だったんですけども、やはり監督責任を問わない訳にはいかないという状況の中で、指導から当然外れていただきました。体罰等防止ガイドラインでも、体罰事案等々不適切な指導が認められたら、即指導から一旦外すというガイドラインになっていますよね。そういった時に生徒達の進路指導は大丈夫なのかというのが非常に心配事になったわけです。その上、顧問の先生も分からない状況であり、学校として必要なサポートが十分に出来るのか疑心暗鬼になっていました。先生に万が一何かあった時でも、学校としてはその子の進路は一生を左右するわけですから、しっかりとサポートしないとイケません。そういった時にあまりにも俗人的個人的にあらゆることを任せ過ぎてしまっていないか。そういったことがガバナンス面での課題として指摘されましたけども、その生徒の将来に禍根を残すことは許されませんので、管理職の責務、学校としてのガバナンスというところにも繋がるんですが、しっかり出来ていないとイケないし、透明な部活動のガバナンスという点でも非常に重要だろうと指摘を受けているところだと思います。議論のまとめの43ページに部活動顧問が進路指導に関与することは当然一概に否定されるものではないとした上で、しかしながら部活動顧問が進路指導に関与していることによって、部活動における顧問と生徒・保護者との主従関係が固定化されることは、主体的な進路決定の観点からも望ましくないということで、生徒の主体性を重視した進路指導の実施、もしくはスポーツ推薦を目指す人とそうでない人が同じクラブのメンバーの中に混ざっていることもあると思いますし、そのへんの違い等々が、チームの亀裂や様々な人間関係の禍根にならないように、きっちりと部活動の意義、チームとして目指すべきビジョンみたいなものを指導の根底にも据えていかないとイケないと思うんですよね。そういった点も踏まえて、これまでのすでに起きた重大事案の反省ですけど、部活動の成績不振や人間関係で結局は退学を余儀なくされたり、転校を余儀なくされるというようなケースが無くなっていくようにしっかりと責任を持ってどんな形であれ、いろんな事を糧にして、市尼を卒業し巣立っていってもらえるように、そんな市尼を目指したいと思っています。そういう意味において進路指導の在り方も一定の見直しや、改善が必要だったんだろうと思います。取り組み済みというふうにはなっておりますが、このあたりはどうでしょうか。まだ、取り組み途上かなと認識していたのですが、現実のところどうでしょうか。

高橋 有識者会議の提言を受けまして、今までも1年生から進路懇談というのを夏休みに行っていますが、やはり担任が基本になってくると思うんですね。そこで子どもたちの希望というのを優先し、担任やクラブ顧問、それと学年も含めて、あとは進路部がありますので、そこに必ず話をしに行くとか、たくさん

先生がその子の進路に関わるという形で体制が出来ておりますので、今取り組み済みというか継続しているという形で思っただけだと思います。

稲村

私としては、平成31年、令和2年に明るみになった、かつての水泳部の事件、ここ数年来の事件の前後で具体的に何か、まず進路の状況に変化があるかというのをお聞きしたいなと思いますし、指導の在り方についても具体的にどういうところを改善しているのかというのをお聞きしたいと思っております。また、議論のまとめの中で、やはり市立高校は異動の範囲が狭いので、人事交流が広がりには欠き、どうしても少し視野が狭くなる懸念があるというご指摘があります。そういった中で例えば県立高校との人事交流だったり、今回大阪体育大学とか桜宮高校とか、ご指摘を受けて広く人事交流なんかもやっぴいこうと取り組みを始めているわけです。そうしますと、やはり当然異動もありますし、不測のトラブルで指導途中から外れるという事もあり得ます。そういった事を当然として、しっかりと進路指導があまりに属人的に任せ過ぎずにサポート出来る体制になっているべきだと思うんですね。その点については、具体的にどういうやり方でそこを担保していくのか、実態としてどうなのか、また先ほどのクラブ活動費等々あわせて、しっかりと対応する必要があります。そうした中で何が問題なのか、どこを改善すべきなのか、生徒の皆さん、当事者の皆さんの実際の思いも少しずつ聞いていながら改革を進めていかなければならない部分だと思います。最初にいろんな事を説明出来てますかと問いましたが、長年いろんな積み重ねや人間関係ですよ。進学先とかそういうのが積み重なってる中だと思いますので、無責任には絶対になってはいけないパートだと思うんですね。今日のところは、これに沿って今後もう少し実態をみて、進路指導は年に1回ですから検証のチャンスがありませんので、ただ子どもたちにとっては、一生に一度の進路決定という人生の大きな大きな選択の時になりますので、そういう意味では責任感とスピード感を持ってチェックいただきたいなと思っております。私としては取り組み済みというのは早いのではないかなと思っております。取り組み中の認識で、引き続き取り組みをお願いしたいと思っております。

今年度も宿題があるかなというところは、皆さんと共有出来たかなと思っております。まずはこの資料1を全体ざっと、いじめのところが全部いけなくて申し訳ないですが、カリキュラムのところをしっかりと押さえていただいているという事でした。出来れば、教育委員会のほうではこのいじめの取り組みもつながっていると思いますので、検証していただけたらと思っておりますが、今日のところでおこななければならないところがあれば発言をお願いします。

正岡

感想を述べさせていただきたいと思っております。この会議の最初に市長から具体的な情報交換を記録に残そうという言葉をお聞きしたと思うんですけど、率直に今日のような協議が出来ていけば、経営企画部も必要なかったんじゃないかなと思います。どうしてこんな事になってしまったのかなとずっと思いながら、今日の会議に参加させていただきました。

まず、そこの総括といいますか検証といいますか、学校側への説明を丁寧にしていただけて、今日のような実のある意見交換といいますか、そういうのが行われていくようになればいいなと思っておりました。

徳山

先ほど申し上げた通り、外部の目を意識する行政職とそうでなかった教育職とで意思疎通を図りながら、この学校の内部の成績などに関しては、学校現場の考え方というのは尊重されるべきですけど、今回のいじめ、体罰に関してはやはり外部の目を意識して目にみえる形で作っていくことはマストだと思いますので、そこはしっかりと見ていきたいと思っております。

また、教育委員会内部でもガバナンスがきいてなかったことは間違いないの

で、これを機に、教育委員の中ですごくこの問題を機に意識が高まりましたし、事務局もしっかり何を報告すべきかと市議会からも追及されて認識いただけたと思いますので、ガバナンスをきかせていきたいと思います。SSW とかスクールカウンセラーとかが、SSW に関しては元々福祉系の部署から教育委員会に後からきたという経緯があるので、もう少し教育委員に何をしているかの説明や、問題点の意見交換が出来る場をこれから設けていくようにしていきたいと思います。

太田垣 校長先生のお話を聞いて、体罰に対するこれからのアクション、密閉性を防ぐ、生徒さんの参画、地域の多様な意見を取り入れるということでこれからのアクションに期待をしたいと思うんですけども、今日は学校側の課題、出来ていないところを聞けなかったのが、これからもう少しそのへんを聞きたいと思います。余談になりますが、私の父は 84 歳で市尼高校の出身であり、体罰の問題を気にかけています。市と学校側が一丸となって、この問題を乗り越えていかなければならないと思っています。

中平 私は市民として教育委員を仰せつかっており、行政組織の中だけで閉じてる部分が多いなという感想を持っています。関わらせていただく中で、あるいは、市民生活の中でもそうなんですけれども、やはり我々の日常の生活や教育に深く関わらざるを得ないのが行政組織であり、今回の件に関しても市民の皆さんや、保護者の皆さんの声というのが大変大きなものとしてあったかと思えます。会議の中でも申し上げたように、出来るだけ市民の声であったり、目であったり、意見であったりを文書等でも今まで以上に具体的に受け取っていただき、私自身も一つの声として出していけるように努めていきたいなと思っています。市長はじめ教育長、教育委員会事務局の皆さん、学校の先生方はちょっとお耳に痛いことやもしかすると的外れなことを今後申し上げるかもしれませんが、今回大変良い場だったと思っております一緒に仕事をさせていただけたらと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

稲村 取り組み中というジャッジになった部分は、今後の総合教育会議の場で引き続き進捗をご報告いただきたいなと思っております。また、必要な取り組みについては予算編成に繋げないといけないと思いますし、外向けに説明をしなければなりません。については教育委員、教育委員会事務局、そして改革の主役である学校現場で取り組みを重ねていただいて、節目でこの総合教育会議を入れるのがいいのかなと思っております。

そのような形で皆さま進めさせていただいてよろしいでしょうか。ここに持ってくるまでの、この三者の取り組みについては教育委員会のほうで決めていただいたらどうかなと思います。節目、節目で全体の進捗確認をさせていただきたいと思います。次回の総合教育会議なんですけれども 10 月 25 日を予定しております。全体の教育振興基本計画の PDCA の進捗確認をしたいのですが、市尼改革もその中の一部ではございますので、10 月 25 日の時点で確認しておくべき事項がありましたら議題にさせていただいたら結構です。

高橋 私達、市尼職員、私も含めて今日教頭も、PTA 会長も来られております。生徒のために我々はやるという気持ちを持ち、一体となって頑張ろうとしております。市長と教育委員の皆さんから色んなご意見をいただきましたので、それを真摯に受け止めて、一步ずつでも半歩でも進められればと思います。これからもご支援ご指導よろしくお願ひいたします。先生方は頑張っておりますのでそこだけは伝えていきたいなと思い、本日出席しました。今後ともよろしくお願ひいたします。

稲村 最後に大事なことを言っていただきました。PTAとか生徒自身ですよね。行政職だけではなく、本当に多くの地域の応援団も含めてかもしれません。多くの人達の意見や、思いもしっかり受け止めた改革にしていくということを今後の進め方の中でもご議論いただきたいということと、私も使っていただいて結構ですので、一緒に取り組みたいと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。生徒達には3年しかありませんので、今日十分には押さえきれませんでしたけど、いつまでに何をしっかりするかというスケジュール感はおさえてご報告いただければなと思ひております。

以 上